

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

この時期になると、「盆帰り」(確か小椋佳の作詞作曲)という曲がついて出る。中村雅俊のレコードでずいぶん昔に聞いていた歌詞が、この年齢になると蘇る。◆今年も故郷に帰省できた人も多かったことだろう。新幹線ホームで荷物をいっぱい抱えた嬉しそうな顔は、豊かさや寂しさの覚悟を湛える。◆一年の中ではじめになるこの風景を見ると、故郷から遠く離れた者は、たまたまなく、しっとりとした感情になるものだ。

草熱れ ～元気への変換～

生い茂った草が強い日光に照りつけられて発する、むっとした熱気のことです。

「熱れる」は、熱くなるとか、蒸れるという意味で、「息切れ」や「息有る」が語源だそうです。炎天下で、草たちも一生懸命息をしているのですね。

「熱る」となると、調子に乗って勢いづくという意味もあります。暑い時は息づかひも荒くなります。ところが、息づかひが荒いのは、暑さのせいではなく、興奮して、勢いづいているからだと思ひ込んだわけです。楽しくなくても、笑っているうちに楽しくなるように、熱くて息を切らすことを元気に変えてしまったのです。

私たちが草たちを見習って、この夏の猛暑を元気に変えてみませんか。

(山下景子「美人の日本語」より)

主催事業 ～わくわく体験広場～(前半)

夏休み期間中の小学生対象のものづくり講座が開かれました。

講師の先生は、どの講座も専門の先生方で、楽しく丁寧に、完成まで指導してくださいました。



「立体貼り絵をつくろう」は、ピーターラビットの絵を何枚も切り、重ねて張っていきます。耳や足など



令和4年度 第10号
令和4年8月15日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿2-16-14
電話 043-243-4343

の細かい部分を丁寧にハサミでかたどっていくところは難しそうです。貝の台に張って、全員が可愛い置物を完成することができました。



「木で文房具をつくろう」は、筆箱とメモケースとモクリップを作りました。材料をのこぎりで切る経験もできました。慣れない手つきですが、丁寧に懸命に切る様子がかげえました。木工ボンドを薄く広げ、強力ゴムバンドで固定。ペーパーサンドで磨いて完成。木のあたたかさがある工作でした。講師の先生からは、木の特徴や手触り、香りなども教わっていました。



「不思議な貯金箱をつくろう」は、まずは工作用紙を使って、お金が消える貯金箱づくり。箱の中に小さい鏡を斜めに忍ばせて作るようですが、そのからくりはわかりません。「どうして消えるか教えてあげようか?」と、小学生たちは目を輝かせていました。次は、地球ゴマ。小さい筒の両端に色を付けて、星と月の細かいシールを張り、

指ではじいて回します。すると浮いたように宇宙が浮き出てきました。小学生は下からのぞきこむように見つめ、歓声を上げていました。この筒はスーパーなどのレシートの芯だそうです。再利用の目の付け所にも感心しました。

「あそび塾・はらっぱ」のスタッフ・荒牧先生の、興味を引くお話に、あっという間に楽しい時間が過ぎていきました。



「小物入れをつくろう」は、シリコン素材に色を付けプラスチックのケースに飾り付けをしていきました。果物やケーキ、お菓子、リボンなどをそれぞれに配置し、色鮮やかなオリジナル小物入れの完成です。物や色の配置に工夫の跡が見られます。さて、何を入れていきましょう。置物としても部屋を飾ってくれそうな工作となりました。

「わくわく体験広場(後半)」は、

8月16日(火)「ランプシェードをつくろう」

8月18日(木)「ウェルカムボードをつくろう」があります。その様子は次号でお知らせします。

デジタルサイネージ(千葉市デジタル掲示板)



公民館の受付横に大画面のテレビが置かれています。夏の高校野球を見るためではなく、これは千葉市が発信する情報や広告を紹介するためのものです。閲覧できるようになったばかりですので、その内容について詳しくお伝えできませんが、様々な千葉市からののお知らせが自動で流され、

見られるようです。今後、公民館職員が利用の方法について講習を受けた後には、新宿公民館独自のお知らせを掲示することにも利用できるとのことです。お越しの際には、どうぞご覧ください。

祭りの後には・・・

3年ぶりの行動規制のないお盆休みでした。テレビのニュースには、東北、北陸地方の水害の様子を伝える映像と、帰省する人や各種イベントに参加する大勢の人を映していました。予防接種など感染予防対策を十分にするうえでのそれぞれの行動だったと思います。若い人たちの夏休みはまだまだ続くので、今後もそれらに似た人の流れは起こるのでしょう。第7波といわれる感染者数は高止まり。この夏の“祭り”の後に報告される感染者数が増えないことを願うばかりです。

【今日の公民館】



〈朝顔が見られますよ〉



季節の日本語

細石さざれいし ～「君が代」の誕生日(1893年8月12日)

小さな石ころがたくさん集まって、やがて大きな岩になる。そして、苔が生えるほど、ゆるぎのないものになっている。

なんと果てしない自然の営みでしょう。

～細石の 巖むとなりて 苔の生すまで

一般に細石は単なる小石を意味しますが、せっかいしつかくれきがん石灰質角礫岩の小石の場合、溶けだした炭酸カルシウムが沈着して、やがて岩となるそうです。

私たちひとりひとは、細石のようなちっぽけな存在。でもその小さな思いが集まって、大きな奇跡を呼ぶこともあるということですね。

たとえば、今の平和も、ひとりひとりの小さな願いが集まって、大きな願いへと広がっていったものだと思います。

細石の心は、普通の思いではないでしょうか。

(山下景子「美人の日本語」より)

夏帰省 窓越し面会 母ピース

～元気そうな笑顔に救われる・・・